

#### ■ 創建時における「荻外荘」の歴史的価値

- ・ 伊東忠太が設計した現存する邸宅4棟のうちの一つ
- ・ 関東大震災後に開発された郊外における中流住宅

#### ■ 「荻外荘」の特徴に関する先行研究

- ① 倉方俊輔「伊東忠太の設計思想 妖怪としての建築」における「入澤達吉邸」の記載  
(鈴木博之編『伊東忠太を知っていますか』王国社、平成15年、pp.124-125)
  - ・ 特徴：書院風のインテリア、天井や扉に凝った中国風の応接室
  - ・ 入澤邸の主要部分が天井の高い椅子式である背景には入澤夫妻の生活改善との関わり
  - ・ 「伊東がどこまで手掛けたかということを考慮する必要」がある
  - ・ 金子清吉という協力者がいる
- ② 杉並区教育委員会による『文化財シリーズ46 国指定史跡 荻外荘』（平成29年）における創建時平面図の解説（p.15）
  - ・ 中廊下形住宅と伝統的な書院造風の雁行型を合わせた間取
  - ・ 椅子、テーブル、ベッドなどの洋風な生活様式（入澤夫妻の要望による可能性あり）

#### ■ 建築家としての伊東忠太と独自の建築様式



西本願寺伝道院（京都）  
「建築進化論」、クイーンアン様式



築地本願寺（東京）  
インドの古代仏教建築の外観



不忍弁天堂天龍門（東京、現存せず）

#### ■ 伊東忠太が手掛けた住宅リスト

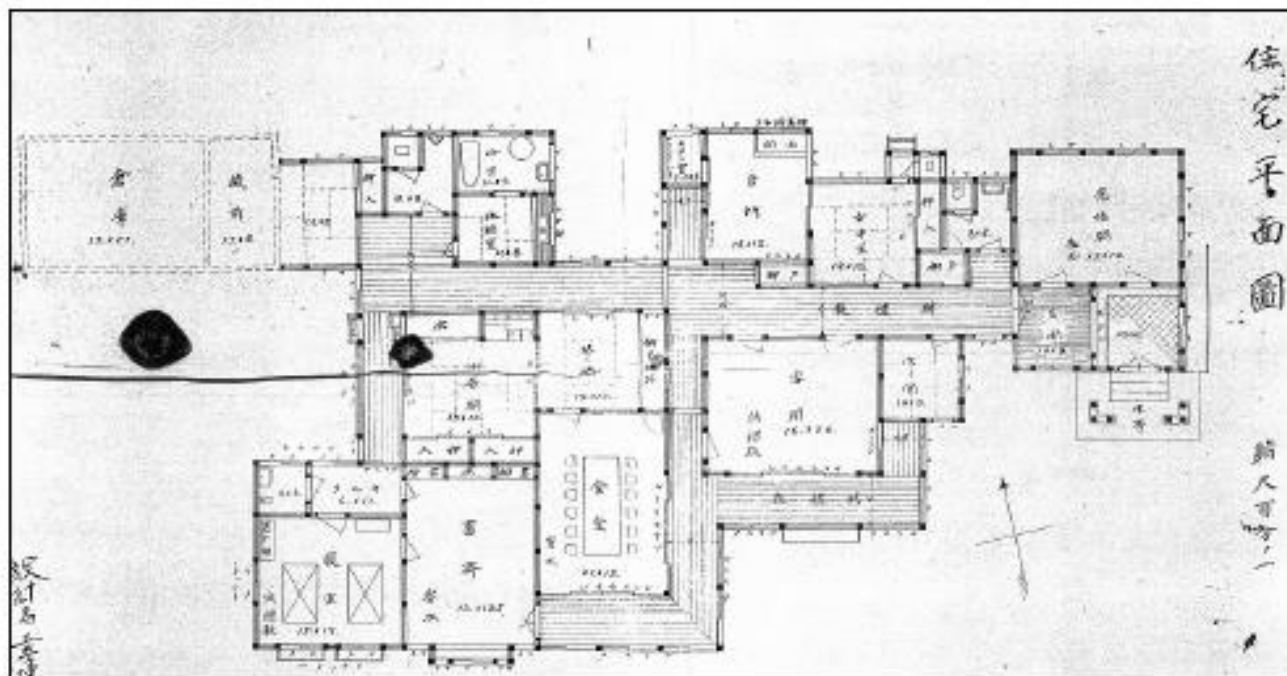
伊東忠太が設計・監督を務めた建物  
としては唯一の遺構

	竣工年	(西暦)	作品名	設計関与	所在地	現存有無
1	明治42年	1909	浅野総一郎邸	設計・監督	東京市	
2	明治42年	1909	山縣有朋別荘 (古希庵)	設計	栃木県矢板市	現存。ただし移築。
3	明治43年	1910	二楽荘	設計	神戸市六甲山	
4	明治44年	1911	入澤達吉邸	設計・監督	東京市本郷区	
5	大正4年	1915	内務大臣等官邸	設計・監督	東京市	
6	大正8年	1919	大倉喜八郎小田原別邸	凶案原案廃棄、 別案に就き顧問	神奈川県小田原町	
7	大正9年	1920	久米民之助箱根別邸門	設計・監督	神奈川県箱根強羅	
8	大正14年	1925	入澤達吉葉山別邸	一部参画	神奈川県葉山町	
9	昭和2年	1927	大倉喜八郎京都別邸	設計・顧問	京都市	現存。
10	昭和2年	1927	入澤達吉邸 (「荻外荘」)	設計・監督	東京市	現存。一部移築。
11	昭和3年	1928	大原別孫三郎邸 (有隣荘)	設計指導	岡山県倉敷市	現存。
12	昭和9-10年	1934-35	白石元治郎熱海別邸	設計・監督	静岡県熱海市	

『伊東忠太建築作品』より作成。青字部分は『文化財シリーズ46国史跡荻外荘』からの追記

- (A) 各部屋が廊下で結ばれている
- (B) 廊下によって部屋の用途毎のまとまりが区画されている（家族用、客用、水廻り）
- (C) 家族用のスペースと比較して客用スペースが大きい
- (D) 家族用諸室（寝室、書斎、食堂）と客間が南面の良い場所に配置されている
- (E) 柱が非常に多く、柱間の両端に幅の小さな壁を配している

※各部屋の大きさが尺寸法によって計算されていることは注目に値する



昭和 2(1927)年創建時の平面図 伊東忠太のサインがある図面(杉並区蔵)

(F) 外観は和風の平屋であり、斜面を上がった台地に建てられている



竣工写真（池南側より荻外荘をみる） 昭和2年（1927）頃 個人所蔵

(G) 部屋の違いを外観から伺い知ることができ、雁行した建屋になっている



竣工写真（池南側より荻外荘をみる） 昭和2年（1927）頃 日本建築学会建築博物館蔵

(H) 玄関は懸魚付き切妻屋根の妻入り



竣工写真（玄関） 昭和2年（1927）頃 個人所蔵

(I) 応接間は中国風であり、螺鈿の家具、山水の掛け軸、天井に龍の絵画、床に龍の敷瓦



竣工写真（応接間） 昭和2年（1927）頃 個人所蔵



(I) 応接間は中国風であり、螺鈿の家具、山水の掛け軸、天井に龍の絵画、床に龍の敷瓦



竣工写真（応接間） 昭和2年（1927）頃 日本建築学会建築博物館蔵

(J) 客間は板敷絨毯敷で椅子式。小壁部分に動物をモチーフにした内装



竣工写真（客間） 昭和2年（1927）頃 個人所蔵

(K) 食堂は寄木造りで椅子式。腰壁が配されている。



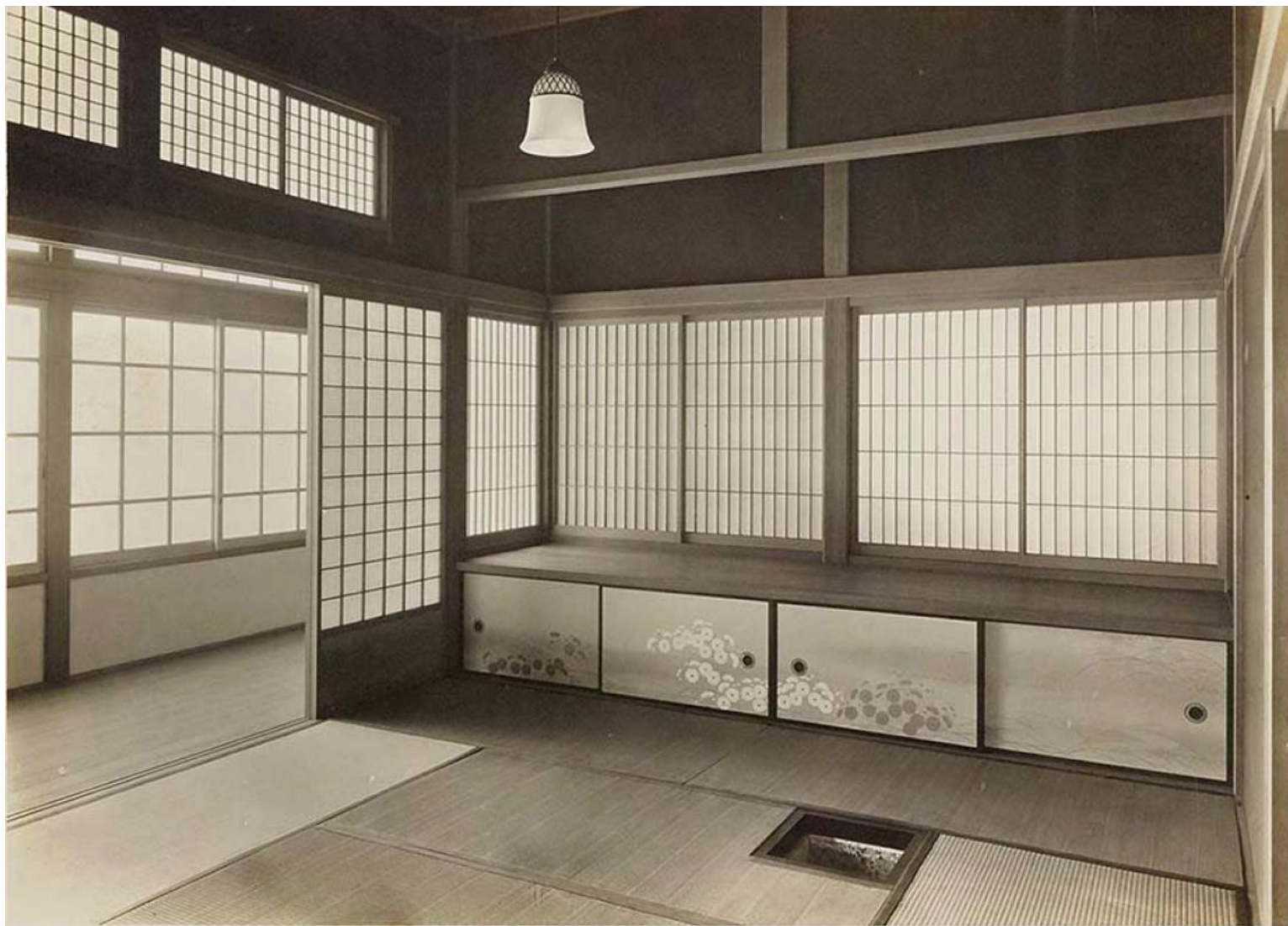
竣工写真（食堂） 昭和2年（1927）頃 個人所蔵

(L) 天井が高く、南に硝子窓を用いており、採光に工夫がみられる。



竣工写真（食堂） 昭和2年（1927）頃 日本建築学会建築博物館蔵

(M) 茶の間は畳敷（8帖）で造り付けの棚がある



竣工写真（茶の間） 昭和2年（1927）頃 日本建築学会建築博物館蔵

(N) 居間は畳敷（10帖）で、付け書院、床の間、違い棚のある書院造り



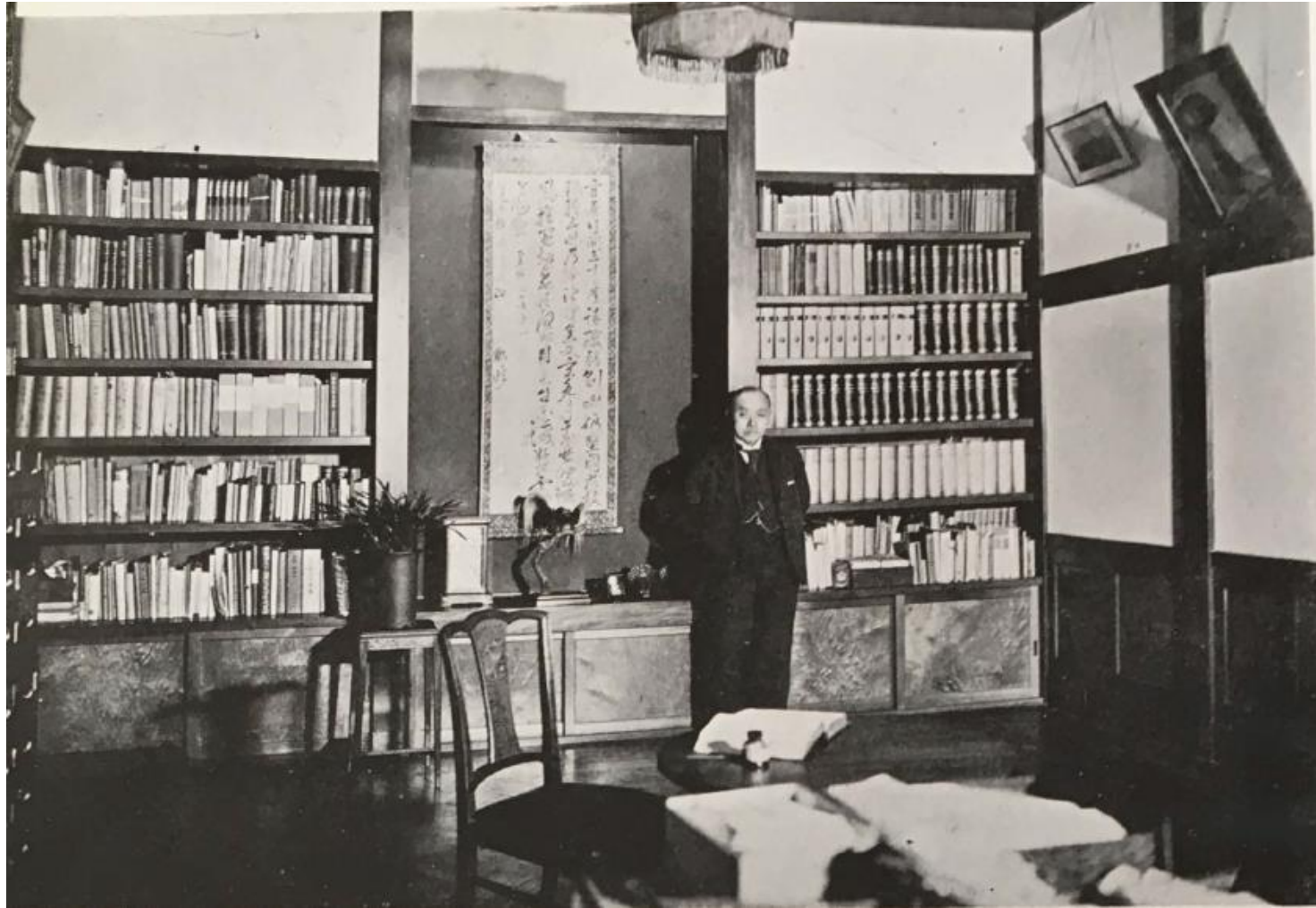
竣工写真（居間） 昭和2年（1927）頃 日本建築学会建築博物館蔵

#### (0) 寝室は板敷に絨毯敷で寝具にベッドを使用している



竣工写真（寝室） 昭和2年（1927）頃 日本建築学会建築博物館蔵

(P) 書斎は板敷、腰壁付きで造付けの棚があり、天井が高い。



写真（書斎） 昭和2年（1927）頃 『伊東忠太建築作品集』より